

令和6(2024)年度 下都賀地区言語障害通級指導等担当教員研修会を開催しました

- 日時 令和6(2024)年6月7日(金) 13:30~16:00
開場 下都賀庁舎(大会議室)
対象 下都賀地区小・中・義務教育学校教員
(言語障害のある児童生徒に対応している教員や通常の学級担任等)

1 研修の目的・内容

(1) 目的

言語障害通級指導等に関わる基礎的知識や技能を習得し、担当者としての資質と指導力の向上を図る。

(2) 内容

講話・演習 「言語障害通級指導教室の実際 ～吃音の指導を中心に～」

講師 小山市立小山城東小学校 直井 正太 教諭

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

ア 栃木県の取組：栃木県教育振興基本計画2025(特別支援教育の充実)

イ 下都賀地区の取組：下都賀地区学校教育の重点

「一人一人の教育的にニーズに応じた特別支援教育」

ウ 初めて通級による指導を担当する先生のためのハンドブック

「構音指導の具体例・通常の学級の担任と通級による指導の担当教員との連携」

(2) 言語障害通級指導教室の実際 ～吃音の指導を中心に～

ア 言語障害通級指導教室について

- ・言語障害とは
- ・言語障害通級指導教室での指導(自立活動)

イ 吃音について

- ・吃音の基礎知識
- ・吃音がある子の心理面

ウ 吃音がある子への支援について

- ・支援の観点
- ・かかわり方のポイント
- ・(参考資料)吃音のセラピー

エ 課題の共有



本研修で学んだこと(参加者が記入した「研修の振り返り」から)

【講話】

- ・趣旨説明の中であったハンドブックの内容について、今までしっかり読んでいなかったのもっと活用したいと思いました。
- ・発話を促す際、リラックスよりほどよい緊張の方がよいと知って、吃音に関わらず、他の場面でも大切であると感じました。
- ・支援として、誰かと一緒ならできる、リズムにのってならできるということも知り、活用したいと思いました。
- ・関わり方のポイントとして、話しやすい聴き手になるということは、どんな子どもにおいても大切であると思うので、意識してそういう雰囲気を作っていきたいです。
- ・吃音についての研修会があまりないのでとても勉強になりました。特に、吃音がある子どもの心理面で「吃音氷山説」が参考になりました。
- ・講師の先生の無駄のない論理のスッキリしたお話のおかげで、自分の中で日頃なかなか整理がつかなかったものがストンと落ちた感じです。
- ・講話では説明だけではなく、講師の先生の実際の体験談が聞けたのが大変良かったです。うまくいかなかったことや反省点が聞けたことで、多くの人が陥りやすい支援の仕方を回避することができると感じました。
- ・「子どもの様子から見て学び、子どもとの関係を構築し、話しやすい環境をつくる」大切なことを忘れずにこの1年子どもと関わり合い、寄り添っていきたいと思いました。
- ・昨年度は知的学級の担任をしていたが、その時にも行っていた自立活動のように、それぞれの子どもの困っていることに寄り添って言語の指導ができるよう工夫していきたいです。
- ・担任の先生との連携の大切さを強く感じています。通級時の良さを職員で共有しながら、子どもを支えていきたいと思っています。

【協議】

- ・協議でも各校の先生方が直面している体験をお聞きでき、「自分だったら」と置きかえて考えることができました。様々なアプローチの方法を共有でき、大変参考になりました。
- ・後半の協議及び情報交換は、とても有意義な時間となりました。それぞれの教室での様子や子どもへの対応など一緒に考えることができました。日頃、通級指導は1人で行っているの、やはり話す時間がとれるのは、うれしいです。
- ・グループ協議では、それぞれの困り感のある子どもについて共有できて、手だてについてもアイデアをもらい、とても参考になりました。途中講師の先生からも助言をいただきありがたく思いました。

